

# 農業技術センター普及指導部作物関係情報

## タイトル：水稻の生育状況（8月24日現在）について

発信日：平成28年8月24日

### 1 内容

- ・キヌヒカリ  
出穂期は、6月上旬及び中旬植えて平年並となった。
- ・はるみ  
出穂期は、6月上旬及び中旬植えてキヌヒカリよりも1日遅かった。
- ・さとじまん  
出穂期は、6月上旬及び中旬植えて平年並となった。

### 2 留意事項

今後の水稻の技術指導においては、次の点に留意して実施する。

#### (1) 気象

気象庁が8月18日に発表した1か月予報では、気温は「平年より高い」、降水量は「平年並が多い」、日照時間は「平年並か少ない」見込みである。

#### (2) 病害虫

- ・ウンカ類・ツマグロヨコバイ  
ウンカ類・ツマグロヨコバイの発生が見られている。出穂期に排泄物で穂が黒く汚れる（すす病）ことがあるので、薬剤散布を行なう。



写真1 ツマグロヨコバイ成虫



写真2 すす病

#### ・紋枯病

今後、高温・多湿が予想されるので、紋枯病が広がりやすいため注意する。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて薬剤散布を行う。



写真3 紋枯病

### (3) 水管理

登熟期間（出穂期～成熟期）の高温は、白未熟粒（乳白粒・心白粒・背白粒等）や未熟粒の発生を助長する。また、登熟初期（出穂後 10 日間）の高温は、胴割粒の発生の一因となる。本年は、登熟初期が高温で経過したため、これら高温障害粒の発生が懸念されるので、用水が十分に確保できる地域では、落水時期まで掛け流しを行い、水温上昇を防ぐ。

落水時期は、出穂後 30 日以後とし、早期の落水はしない。出穂後 30 日間は玄米に養分が蓄積し、肥大する期間であり、早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するので、落水は極力遅くする。

### (4) 収穫

出穂期は平年並であるが、向こう 1 か月の気温は平年よりも高くなる見込みである。そのため、成熟期は平年よりも早まると予想されるので、刈り遅れないよう注意する。

成熟期は、出穂期以降の平均気温の積算温度に影響される。収穫適期の予測は、別表の成熟期予測を参考にする。ただし、黄化粳割合、粳水分、倒伏程度、作期やほ場ごとの生育等から総合的に判断する。粳の黄化割合による収穫適期は表のとおりであり、黄化程度の判断方法は図を参考とする。

表 収穫適期の目安となる品種毎の黄化粳割合

品種	黄化粳割合 (%)
キヌヒカリ	85
はるみ	85
さとじまん	90

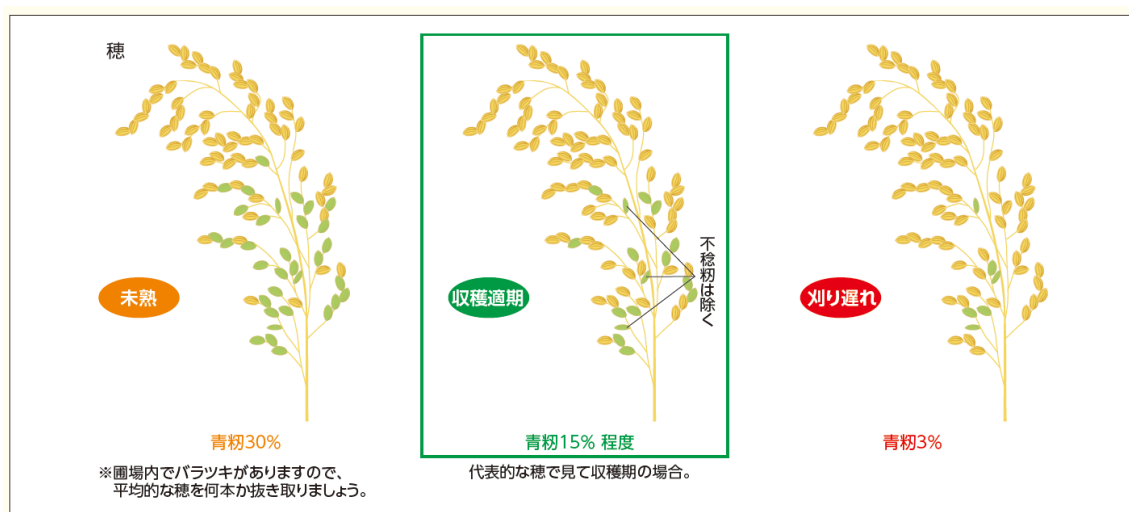


図 1 穂の黄化程度（割合）モデル

特に、刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながるため、収穫は必ず適期に行う。また、刈り遅れや倒伏した場合は、株が抜けたり、穂が地面につくことにより小石等の異物混入の原因になるので若干高刈りとする。

「はるみ」は、「キヌヒカリ」よりも穂発芽しにくい刈り遅れのないようにする。

## (5) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効である。

なお、事故防止の観点から台風接近後における水田等の見回りについては、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨、強風が治まり、安全な状況になってから行うこと。

### ア 事前防止対策

- ・ 用排水路の詰まり等の点検、清掃を行い、浸水、冠水時の速やかな排水に備える。
- ・ 深水湛水できるよう畦畔の整備を行い、台風前は水田の水を深く張り、倒伏や急性萎凋を防ぐ。特に強い風を伴う台風は注意する。

### イ 事後対策

- ・ 台風による損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保つ。
- ・ 浸水または冠水した場合は、速やかに水田から排水した後、新鮮な水で2～3回湛水と排水を繰り返す。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は、動噴等を利用して真水を散布し、洗い流す。
- ・ 台風通過後にウンカ類やコブノメイガ等の害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の情報等に注意する。

## (6) 作業安全

コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検、整備、清掃し、計画的な作業に努める。コンバインやバインダーは、Vベルト、掻き揚げ爪、刈り刃、足回り等を、乾燥機は掻き揚げ部等の残渣のチェックを行い、安全使用とトラブルの回避に努める。

また、収穫作業が始まる前には、毎回、機械の点検、整備を行う。

農作業中の熱中症に十分注意するとともに、コンバイン等の農業機械を使用する機会が多くなるので、安全を最優先し、農作業事故に遭わないようにする。

【別表】

◎農業技術センター（平塚市）における出穂期と成熟期（概ねの目安）

品種名	作期	本年の出穂期	登熟日数	登熟積算温度	平年の成熟期
キヌヒカリ	5月 下旬植	(8月6日)	(38日)	(990度)	9月13日
	6月 月上旬植	8月10日	40日	1,030度	9月18日
	6月 月中旬植	8月16日	42日	1,040度	9月27日
はるみ	6月 月上旬植	8月11日	40日	1,030度	9月19日
	6月 月中旬植	8月17日	43日	1,060度	9月28日
さとじまん	6月 月上旬植	8月18日	44日	1,060度	9月28日
	6月 月中旬植	8月23日	45日	1,060度	10月5日

(注1) 平年値は、5月下旬植は平成14～18年の平均、6月上旬及び中旬植は平成17～27年の平均とした。はるみは、6月上旬は平成20～24、26、27年、6月中旬は平成21年～24、27年のデータに基づく。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課  
平塚市上吉沢1617

TEL : 0463-58-0333 内線381～384

FAX : 0463-58-4254